

だ い ご み

令和8年
~春号~

第 35号



ごあいさつ



令和8年は、丙午（ひのえうま）の年です。

「丙午（ひのえうま）」は、十干十二支の組み合わせの中でも、情熱と行動力を象徴する年とされています。「丙」は陽の気が盛んに伸びゆく様を、「午」は勢いと転換の力を表します。

この二つが重なる年は、内に秘めた力を解き放ち、新たな挑戦に踏み出す好機ともいわれます。火のエネルギーを日々の生活全体に広げて「情熱」「勢い」「突破」をテーマに、明るく活気のある年にしたいと思います。

今年も、明るい一年にしていましましょう。

センター長 岩田 義信

圏域の地域ケア会議のご報告

今日高齢者人口が全人口の約29%に達し、今後5人に1人が認知症になると言われる時代になりました。その背景から、令和7年8月8日『地域で過ごす認知症高齢者との関わり方』をテーマに会議を行いました。

今回、地域の民生委員や学区社会福祉協議会、消防や警察、役所といった行政機関に加えて、介護事業所、地域の診療所の医師と地域の課題について話し合いました。

その中で、『対応方法や相談窓口が分からない。』『住民からの相談も多く困っている。』等、課題がありました。

まずは認知症について、医仁会 武田総合病院 小島先生と認知症地域支援推進員 松宮様からご講義を頂きました。認知症という疾患・症状への正しい理解をすることを始め、認知症地域支援推進員の『京都式オレンジプラン』や京都市認知症初期支援事業があり、認知症の相談・対応窓口があることを学びました。

地域で認知症高齢者や家族を支えるしくみが必要とされており、オレンジカフェや家族会等だけでなく、キャラバンメイトや認知症サポーターとして支えて下さる方がいることも共有しました。認知症サポーターは、『認知症サポート養成講座』を受け、得た知識を生かして、地域で認知症への正しい理解と支援の和を広げていく取り組みで、多くの地域の方が認知症サポーターとして活躍してくださっています。

会議を通して、地域全員が我が事として受け止め、一緒に考えていく必要性を改めて痛感する機会となりました。



新しい包括スタッフのご紹介



【 令和7年 10月に醍醐・南部地域包括支援センターに異動してきました、山村 真奈です。】

異動する前は、居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして、要介護の認定を受けた方の担当をさせて頂いていました。そして、10年以上前には、包括支援センターの社会福祉士として勤務していました。その頃に、お世話になった方もおられるかと思えます。改めまして、よろしくお願いいたします。

かなりのブランクがありますので、以前に勤務していた頃とは制度等が変わっていることも多く、また年を重ねていることもあり、毎日の業務をこなすことで精一杯になっておりますが、徐々に慣れていけるように頑張っているところです。皆様から色々と教えていただきながら、包括支援センターの職員として役割を果たしていきたいと思っておりますので、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【 令和6年 4月から醍醐・南部地域包括支援センターで保健師をしています、太田 彩香です。】

いつも当センター運営にご協力ありがとうございます。本年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。

私のことを知って頂ければと思い、この場をお借りして少し自己紹介させていただきます。

京都生まれ京都市育ちの京おんなです。場所は左京区です。事務所まではいつも京都市営地下鉄東西線を使用して通勤していますが、石田駅の階段の長さには最初は驚きました。頑張って階段を使って歩いていましたが、最近はエスカレーターを使うようになっていたところ、公園体操や地域の体操教室で頑張っているみなさんを見て、私も階段を使うようにしたいと思うようになりました。

皆様と一緒に、住みやすい地域作りができるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【 令和7年 12月から醍醐・南部地域包括支援センターに保健師としてきました、小林 由佳です。】

ご利用さま、地域の方が健康に過ごしていけるようお力添えできればと思います。

私は広島県出身で京都にきて約7年になります。はじめは京都の人の多さに驚きましたが、右往左往しながら大分慣れてきました。観光名所がたくさんあるのも楽しいですね。これから醍醐地域のことも知っていききたいと思います。趣味はスポーツ観戦で特にサッカーが好きです。地元のサンフレッチェ広島と京都サンガを応援しています。昨年の京都サンガの飛躍はとて嬉しかったです。今年もスポーツを楽しんでいきたいなと思います。

働きはじめて早1ヶ月が経ちました。まだまだ慣れないことも多いですが、一步一步頑張っていきたいと思えます。ご迷惑をお掛けすることもあると思えますが、どうぞよろしくお願いいたします。



高齢サポート・醍醐南部

(京都市醍醐・南部地域包括支援センター)

TEL:572-6572/FAX:575-4738

開所時間: 月~金 8時半~17時

〒601-1434 京都市伏見区石田森南町9

(老人保健施設 白寿 1階)

担当学区:

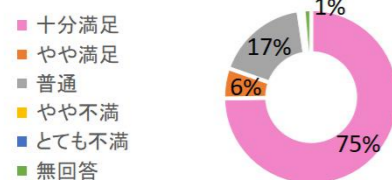
小栗栖・小栗栖宮山・石田・春日野・日野

利用者「満足度調査」集計結果のお知らせ

～ご協力ありがとうございました～

■実施期間	令和7年 11月 1日～ 12月 15日
■対象者数	398名 (10月サービス利用者)
■回答者数	214名
■回答率	53.7%

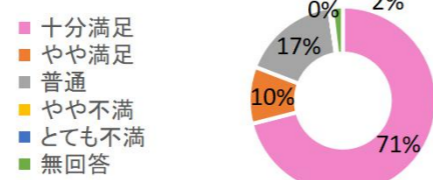
質問1 担当職員の対応やマナー (身だしなみ、言葉遣いなど) はいかがですか？



<頂いたご意見の一部抜粋>

- ・マナー良し、言葉遣い良し、十分満足。
- ・いつも丁寧な対応である。

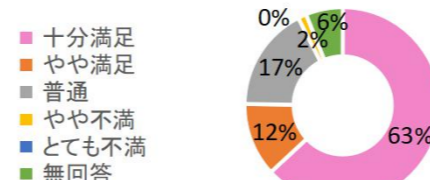
質問2 担当職員への相談のしやすさはいかがでしょうか？



<頂いたご意見の一部抜粋>

- ・いろいろ相談できる。

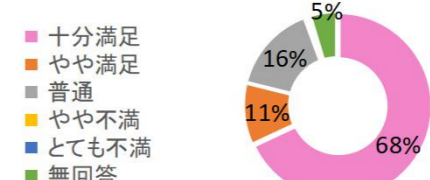
質問3 担当職員が作成している介護予防サービス支援計画書(ケアプラン)の内容は、事前に説明や話が出来ており、満足のいくものですか？



<頂いたご意見の一部抜粋>

- ・詳しく説明してくれている。
- ・事前に話したことも書いている。

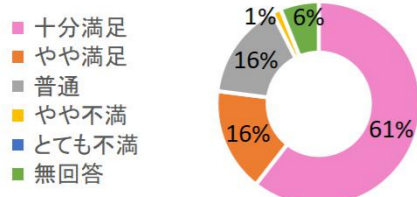
質問4 担当職員からのお返事やご連絡は的確にできていますか？



<頂いたご意見の一部抜粋>

- ・電話も心配してかけてきている。

質問5 担当職員の専門性・知識については満足されていますか？



<頂いたご意見の一部抜粋>

- ・十分満足している。

質問6 その他ご意見ご要望がございましたらご記入をお願いします。

<頂いたご意見の一部抜粋>

- ・尋ねたことに対する返事は満足している。
- ・今のままで十分満足
- ・いつも親切、丁寧である。
- ・顔を見に来て心配してくれるので嬉しい。
- ・行き届いた対応である。
- ・相談しやすく、親身になってくれている。
- ・よくやってくれている。

など沢山のご返答ありがとうございます。

頂いたご意見へ対する回答

いくつか皆様から質問やご要望もお受けしましたので、この場を借りて回答させていただきます。

○訪問の頻度について、「自宅訪問は3か月に1回位でお願いしたい。」
「毎月来てほしい。」というご意見を頂きました。
⇒お体のご状態確認とご利用されている介護保険のサービスが問題なく経過しているか、毎月お電話またはご訪問で確認させて頂いています。
必ず3か月に1回は対面でご確認させていただきます。ただし、体調やご要望により担当の職員とご相談頂き、訪問することもあります。ご不安がある際は、遠慮なくご相談ください。

○地域包括支援センターに在籍の専門職種について、「どのような専門性があるか分からない。」というご意見を頂きました。
⇒地域包括支援センターには「主任介護支援専門員」、「保健師」、「社会福祉士」、「介護支援専門員」という資格をもった職員がいます。

主任介護支援専門員は、居宅介護支援事業所等、地域で務めているケアマネジャーの指導や支援の他、多職種とのネットワーク作りもしています。
保健師は健康づくりや介護予防を目的に、公園体操やZOOM教室といった、介護保険外で健康に対する取り組みをしています。
社会福祉士は高齢者の権利擁護に関する役割があり、虐待の早期発見や予防、消費者被害、成年後見院制度の相談窓口となっています。
介護支援専門員は介護保険サービスの利用調整等を行っています。
どの職種も連携しながら地域の皆様と関わっており、地域の高齢者の相談窓口として在籍しています。「こんなことを相談していいのか。」「近所の人が認知症かもしれない。」等、お困りごとやご相談がある際はお気軽にご利用ください。

たくさんのご意見を頂き、誠にありがとうございました。
紙面の都合上、全てのご意見を掲載できず申し訳ございません。
醍醐・南部地域包括職員一同、みな様のご意見をもとに日々精進してまいります。

質問7 ご自身の在宅生活の中での心配事、お尋ね事がありましたらご自由にお書きください。

<頂いたご意見の一部抜粋>

- ・一人暮らしで心配や不安、寂しさもあるが、近くに包括センターがあるので安心して居る。
- ・自分で出来ることは自分でと決意して、くらししている。
- ・毎回お話を楽しみにしている。
- ・話をきいてもらうとほっとする。
- ・入退院をしたときに、自分の体が心配である。
- ・おいおい聞くようにしている。